

カンボジアの地元の児童に対する衣服の寄付活動

代表者 上原 美和 (医学部看護学科4年)

1. 目的と概要

地球規模の気候変動の影響により、インドシナ半島内陸部において冬季の気温の低下がしばしばみられるとの問題があります。カンボジアの首都から遠方高地の地方では、冬季に児童の長袖や長ズボンなどの衣類の需要が高まる一方、それらが十分に普及しておらず現地の児童らが必要としている現状がありました。これは開発途上国での都市・地方の経済格差の問題であり、弱い立場にある児童がその影響を受けているという問題です。

このプロジェクト事業は、気候変動により冬服が不足しているカンボジアの僻地に住む子供たちに、子供用長袖衣類を送り届けることを目的としたものです。このプロジェクトでは、医学部キャンパス内3箇所で衣類の寄付を呼びかけ、集めた衣類にメッセージカードや写真を添付し、現地の方々との交流を通して、カンボジアに衣類を届けました。

2. 実施期間（実施日）

令和4年6月30日から令和5年2月3日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

当初の計画は、現地の学生との交流促進も目的としていたため、MOU締結校の国立健康科学大学 University of Health Science (UHS) の看護学生と連携して、現地の児童へユーズド衣類を届けていただく計画でしたが、コロナ禍での大学休校の影響からUHS学生との共同活動を断念する結果となりました。そのため、計画を修正し香川大学と交流のあるカンボジア政府教育青年スポーツ省(以下教育省)学校保健局スタッフにより現地の学校選定とともに衣類を届けていただくことにしました。

ユーズド衣類の募集方法としては、医学部キャンパス内でチラシの掲示や支援箱の設置を行い、子供用長袖衣類の募集を呼びかけました。設置場所については、スライドのとおり、医学部キャンパスの食堂、看護科ラウンジ、医学科ラウンジの3か所としました。その結果、医学部生の兄弟姉妹のユーズド衣類子供用長袖71着を集めることがで

きました。

また、衣類の輸送方法についても変更点がありました。当初の計画では、佐川急便国際便にて輸送を予定していたのですが、現地集積場所である教育省学校保健局に郵便番号がなく、佐川急便での輸送が困難となりました。そこで、計画を変更し、「文部科学省日本型教育の海外展開」香川大学事業で来日研修中のカンボジア教育省学校保健局の方に依頼し、直接カンボジアへ衣類を持って帰っていただき、現地の路線バスや配達業者を経て、学校保健局の選定を頂きました。

衣類を必要としている子どもたちのいるシェムリアップ州ヴァリン地区のプラサート小学校に届けることとなりました。この教育省から届け先小学校への配送は、上記香川大学事業の現地通訳者の協力をえました。カンボジアでは配送品はしばしば盗難にあうため、確実な方法が必要だったからです。

私たちは、日本からカンボジアという国を超えて困っている児童らに、直接会えずともどんな人から衣類が送られたのか、どんな思いで衣服を届けたのかを児童らに伝えるため、配布する衣類の一つひとつにサークルメンバーの集合写真付きメッセージカードを添付しました。メッセージカードのクメール語添削は上記香川大学事業の現地通訳者の協力をえました。



開発途上国内の地方への配送やコロナ禍のため、幾つかの計画変更や現地児童らとの直接的な関わりはできなかったものの、新しいことに挑戦する力や変更に対応できるスキル、そして国境を越えて助け合う絆づくりができたと考えます。また、何より寒さに耐える児童らに私たちにできる長袖衣類の提供という支援ができ、弱い立場にある児童らの健康に関わることができたと考えます。この活動は、2016年から築かれた香川大学とカンボジア政府との友好関係を深め、アジアの友人としての意識を学生や児童の世代に築いたものといえます。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

衣類寄付を呼びかけるという行動を起こしたことで、カンボジアでは冬物衣類が足り

ていないという現状を知ってもらい、またそのような意識をもたせるきっかけのひとつになったのではないかと考えます。

さらには、現地の人との交流を直接的ではないものの間接的に行えたことで、カンボジアとの交流促進につなげることができたと考えます。

様々な価値観を持つ人々が協働して一つの事業に取り組むことで、環境が変われども一人ひとりが自らの意見を持ち交流することが大切であると示しました。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

まず、発展途上国であるカンボジアがどのようなことに困っており、何が課題とされているのかを知る機会となりました。そのことから、コロナ禍において自分たち学生に何か出来ることはないかと、自ら考え行動する力を養うことができました。

また、現地の人々の言葉や生活を実体験として感じることで、日本だけでなく世界に対して医療や福祉の目を向けることの大切さを学びました。

様々な困難や決断を迫られたことから、サークルメンバー間や現地の人々との協働体制を早期に構築すること、柔軟に対応するために計画を十分に練ることの必要性を学習しました。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

私たちは、この夢チャレンジプロジェクトを通して、主に4つのことを学びました。

1つ目は、活動の進め方です。私たちは、長袖を集めることが目的であったため、衣替えの時期である秋や冬に寄付活動を検討することが必要でした。しかし長袖が必要となる時期は冬であり、日本で集めた衣類をカンボジアに迅速に送る必要がありました。そのため輸送方法、例えば船で送るのか、飛行機で送るのかを検討しました。このようなことから、目的を達成するために先を見通した活動の進め方が重要であると分かりました。

2つ目は、日本と海外との差を意識することです。海外に送る際に関税が高額になることや、カンボジアという発展途上国には郵便番号等の住所が未特定な地域があり、必ずしも郵送することができるとは限らず、今回のように困難になる場合があることを実際に経験しました。また、配送においては盗難などの被害が考えられプノンペン以外への配送は一般的に困難でした。そのため、海外の状況を知ることや日本の当たり前、例えば郵便番号が必ず存在すること、配送ルートが確保されていることなどがない可能性があることを理解しておく必要がありました。

3つ目は、柔軟に対応できる力です。今回のプロジェクトでは、当初の計画とは大きく変更を行いながら活動を進めてきました。コロナウイルスによってカンボジアのUHS学生との共同活動ができなくなったり、計画していた国内の輸送ができなくなるなど、これから起こり得る事態を視野に入れて活動しなければならないと分かりました。また、カンボジアのように住所がないことによって、別の輸送方法を思案する必要があったた

め、柔軟に対応できる力が必要不可欠であると学びました。加えて、この計画全般において、私たち学生の力だけでは活動を行えない現状がありました。顧問の清水先生をはじめ、カンボジア政府教育省学校保健局スタッフの方々や現地の方々の協力なしでは衣服を届けることができなかつたと感じています。そのため、計画段階で学生の力でできる活動の限界を見定めるだけでなく、他の方々に協力していただくことも視野に入れて今後の活動を検討する必要があると感じました。

最後に、コミュニケーションを継続して取り続ける重要性です。サークルメンバー間での定期的な情報共有はもちろんですが、カンボジアの現地の人々とのコミュニケーションも大切でした。メールだけでなく、手紙でのやり取りを行いながら、実際に現地の子供たちには会うことはできませんでしたが、見えないつながりを持つ大切さを学びました。

一方で、私たちが普段カンボジアで使われているクメール語と関わる機会がないために、私たちの意志をクメール語で伝えることができませんでした。簡単な日本語を自分たちでクメール語に翻訳し、クメール語と英語の2言語を用いて書いたメッセージカードを作成し、現地の方に翻訳をしていただきましたが、クメール語の翻訳が間違っており、もしそのまま子供たちの元へメッセージカードが届いたならば、私たちのメッセージは正しく届くことはありませんでした。私たちは、違う言語で相手に思いを伝える難しさを痛感しました。

令和4年度のプロジェクトを通して、カンボジアの地元の方々からの要望として、地方の小学校では、長袖衣類だけではなく、学用品などの他のニーズもわかりました。今回、カンボジアの首都プノンペンとは非常に距離のあるシェムリアップ州ヴァリン地区のプラサート小学校へ長袖衣類を寄付させていただきましたが、プラサート小学校の他にも他の学校への衣類寄付や、他の物資支援を検討したいと考えています。またコロナ後となりつつある中、平成30年度カンボジア渡航寄付活動と同様、実際に渡航し、交流して現地の問題と課題を確認するステップもできればと考えます。

7. 実施メンバー

代表者 上原 美和 (医学部4年)

構成員 佐野 朱音 (医学部4年)

安田 優紀 (医学部4年)

多田 和貴 (医学部4年)

北本 晃大 (医学部2年)

近藤 綾香 (医学部2年)

村上 華音 (医学部2年)

吉田 琉夏 (医学部1年)

森田 夢 (医学部4年)

安田 希代璃 (医学部4年)

仙波 愛結 (医学部3年)

小野 咲良 (医学部2年)

寅丸 遥加 (医学部2年)

山本 遥 (医学部2年)

8. 執行経費内訳書

配分予算額		200,000円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備考
新古衣類調達費（寄付集め）			0	
香川大学からプノンペン市カンボジア教育青年スポーツ省学校保健局までの国際手荷物料	1	19,740	19,740	
学校保健局からシャムリアップ州バリン郡のプラサット小学校までの配送料	1	26,566	26,566	
合計			46,306	